

名 称	第1回鹿沼市総合計画審議会議事録
日 時	平成27年7月3日(金) 13:30~15:00
場 所	鹿沼市民情報センター 子育て情報室
出 席 者	委員25名、市長・副市長・教育長・各部局長・事務局(市側:計19名)、県職随員1名 詳細は別紙のとおり
内容及び 結果等	<p>(進行:袖山課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 委 嘱 (名簿順に袖山課長から委員を紹介後、委員を代表して1名に市長から委嘱状を手渡した。) ○ 市長あいさつ ○ 職員紹介(名簿順に袖山課長から市側出席職員を紹介。) ○ 会長・副会長の選任 ⇒ 委員から鈴木節也委員を会長に、井戸道廣委員を副会長にとの推薦があり、承認された。 <会長・副会長就任挨拶要旨> <ul style="list-style-type: none"> ・重責ではあるが、皆様のご協力をいただきながら、次期鹿沼市総合計画、鹿沼市版総合戦略をうまくまとめていきたい。 ・会長を補佐しながら、努力していきたいので、皆様のご協力をいただきたい。 ○ 審議会への諮問 市長から鈴木会長に次期鹿沼市総合計画の策定について、諮問書が手渡された。 ○ 議 事 (1) 「次期鹿沼市総合計画」・「鹿沼市版総合戦略」の策定について 別添資料1~3について事務局から説明。 <質問・意見等> 特になし <委員全員からの計画策定に向けてのご意見等> (委員)教育の立場からの視点で、子育てや人づくり、教育分野で貢献したい。 子どもの笑顔が輝く、子供の声が響くまちにしていきたい。 (委員)今年度から「とちぎ終章学」という、人生の終章をどれだけポジティブに描けるのかを宇都宮大学で講義する予定。若い人たちも含めてどれだけポジティブに幸せな地域をつくっていけるのかを考える上で、キーワードになるのではないかと考えている。 この計画がみんなで考え始めるための地盤をつくり、その地ならしになればいいと思っている。 (委員)少子化の問題、子育ての問題など、お母様方のご意見を集めてこの場で提供できればと思っている。 (委員)鹿沼は様々な分野でポテンシャルは高いと思っている。地方創生は、若い人の仕事をどうするのが鍵。みんなが輝く協働の町、自分らしい町づくりが必要。また、新たな価値観の創出や、初心にかえることも大切。 <裏面へ続く>

内容及び
結果等

- (委員) 雇用創出の立場からの意見を申し上げたい。人が定住するためには、生活や職環境の向上が重要。(職の質を向上していきたい。)
- (委員) 文化方面のからの意見を出したい。街中を活性化して、空き家対策とか、文化の面で発展させてほしい。おしゃれな町、魅力ある街づくりをして、人口減を食い止めたい。
- (委員) 農業の振興をテーマとしてお願いしていきたい。米価は下落はしているが、昨年の秋から今年の春にかけてイチゴ・トマト・ニラが生産量は落ちているが、売り上げは昨年を上回った。このへんの切り口から、農商工の連携をふまえながら、従来の形にとどまらない農業を提言していきたい。
- (委員) 健康維持には、医療(薬)・食事・適度な運動が大切。今年のかつきマラソンの評判が良かった。スポーツを通じた提言をしていきたい。
- (委員) 鹿沼支社に来て1年弱になる。鹿沼は治安が良く、病院や整骨院が多い。自然や農業、産業などポテンシャルも高い。総合計画は幅を持たせて、柔軟性に長けたものにしていきたい。
- (委員) 外からの流入を促すためには、外への発信が重要。市民が市のことをあまりわかっていない。市民の理解が重要で、市民が楽しさを持って、外へ伝えるとこと、また、そのことを子供達へ伝えること(雰囲気)が大切。鹿沼市の未来を背負う子供たちが、鹿沼に残りたいと思うようなまちづくりができればいいと考えている。
- (委員) 若い人も、高齢者もお互いに支え合う、そういう気持ちを持ってもらえるような、意見を出していきたい。地域の人に輝いてほしい。
- (委員) 人口減少と同時に高齢化率25%を支えていくことを考えると、成長よりも成熟という方向へ進めることや、子どもを産みやすく、育てやすい地域ということも同時に考えて行く必要がある。ないものを求めず、あるものを伸ばす、ブームに乗るのではなく流行を自ら創出していくまちづくりが必要。高齢化についても、受け皿となる施設入所が難しく、在宅介護へ移行しているが、この点についても考えていく必要がある。
- (委員) 奥山では獣害被害がひどい。獣害対策をすることで、自然環境を守り、魅力ある自然を残していきたい。また、他市よりも子育て世帯に優しいまちにしてもらえれば、自然に人も増えて、人口流出も防げるのではないかと思う。
- (委員) 地方創生は、雇用の創生。企業の成長支援、起業のお手伝いをしながら地元へ貢献していきたい。いろんな側面から、地銀としての情報等を使いながら、アイデア等を出していきたい。
- (委員) 地域防災の要である消防団員の獲得が課題。地域に若い人はいるが、地元就職者が少なく、なかなか団員として地元で活動するのが難しい。若い人が地域に残って活躍できる場が増えれば良いと思う。子どもたちにも鹿沼の魅力をアピールできるようにやっていきたい。
- (委員) 子育て環境をもっとアピールできればと思う。産みやすい育てやすい環境も、先輩方の話を聞きながらやっていきたい。

- (委員) 資料の P. 3 に「交流促進・定住促進」とあるが、これでは自治体間の競争にさらされてしまうのではないかと思う。その辺をどのように攻めていくのか、興味がある。また、近隣市との連携を図る勇気があるのかどうかなど今後お聞きしていきたい。
- (委員) 定住交流促進には、まずは仕事づくりが重要。仕事があれば若い人が集まり、活気あるまちづくりへつながる。金融機関が持つ情報を活用して、いい案を出していきたい。
- (委員) 鹿沼市の約 7 割が森林。きれいな清流があり、鮎釣りをする人等が楽しみにしている。これも一つの観光資源。鹿沼産材は、加工技術が進んでいるが、製材工場が 2 件しかないのが課題。森林と山村の振興を提案していきたい。
- (委員) 不法投棄は少なくなってきた。西大芦は人口が少ないが、空気や川がきれいで、バーベキュー利用者が多い。ゴミを河原に捨てる人は減ったが、駐車場に捨てて帰ってしまう人がいて困っている。
- (委員) 子どもたちが集まって楽しめる場が少ない。子どもたちが輝けるまちづくりを、結婚・子育てに絡めて進めることが魅力につながるのではないか。
- (委員) 上粕尾も人口が減っており、空き家が 24 件（空き家調査）あった。若い人に住んでもらいたい。鹿沼に住んでもらう方策が必要。
- (委員) 鹿沼にあるものの中から、雇用の創出を深め、市独自の産業へ育てていきたい。安心して子供を産み育てられる、安心安全なまちづくりをしていかないといけない。自分でできるところは自分でやるということを市民に理解してもらうことが必要。安心安全な鹿沼市づくりに寄与していきたい。
- (委員) 鹿沼は住みやすさなど、ポテンシャルが高い。雇用の創出（促進）と交流人口の拡大、定住促進（移住促進）が課題。空き家対策、耕作放棄地の解消、後継者不足、就労支援の問題も含まれている。結婚、出産、子育ての面でも、出生率のアップを図るため、子育て支援に結びつくような政策を考えていかないといけない。生産人口減少と、女性の活躍の場の創造し、提供していくことが重要。
- (委員) 鹿沼市歌の 3 番に「新たな文化」とあるが、文化が大切であると考えている。計画を策定するにあたり、取り入れて行かないといけないような内容のお話を皆さんからいただいた。

<裏面へ続く>

(市長総括) それぞれの分野から見た貴重なご意見を頂戴した。目指すところの方向性は一緒であると思っている。どのように具現化するかが課題。次期総合計画に向けて、審議を深めていただければと思う。

自らのふる里を見直すためにも、外へ出て見つめなおすことも大切。外へ出て、戻ってきてもらうことが重要。全国が一斉に競争するのだから、うまくいく所と目的達成に至らない所もあるだろう。鹿沼の良さを掘り起こして、自信を持って外へ向かって発信していきたい。皆様からは、気づきのきっかけとなるような建設的なご意見をいただきたい。

(2) その他

事務局から参考資料1により人口に関する本市の状況について説明。

(委員) 委員の中に20代の方や、子育て世代の方が少なく、意見が反映しにくいのではないかと。また、女性の委員も少ない。20代の意見や、女性の意見を取り入れていただき、バランスよくビジョンを策定してほしい。(さまざまな方法を活用して意見を取り入れてほしい。)

(事務局) 子育て世帯との意見交換会等を実施している。また、市民会議では、審議会と比べて女性のメンバーが多い。

◇次回は9月14日(月)10時からを予定

○閉会